

## 校異源氏物語・わかむらさき

わらはやみにわつらひ給てよろつにましなひかなとまいらせ給へとしるしな  
くてあまたたひおこり給ければある人きた山になむなにかし寺といふ所にかし  
こきをこなひ人侍るこそ夏も世におこりて人くましなひわつらひしをやか  
てとゝむるたくひあまた侍りきしゝこらかしつる時はうたて侍をとくこそ心み  
させたまはめなときこゆれはめしにつかはしたるにおいかゝまりてむろの  
にもまかてすと申たれはいかゝはせむいとしのひてものせんと給て御ともにむ  
つましき四五人はかりしてまたあか月におはすやゝふかういる所なりけり三月  
のつこもりなれば京の花さかりはみなすきにけりやまのさくらはまたさかりに  
ていりもておはするまゝにかすみのたゝすまひもおかしうみゆれはかゝるあり  
さまざまならひ給はすところせき御身にてめつらしうおほされけり寺のさまもい  
とあはれなりみねたかくふかきいはの中にそひしりいりゐたりけるのほり給  
ひてたれもしらせ給はすいといたうやつれ給へれとしるき御さまなればあな  
かしこや一日めし侍しにやおはしますらむいまはこの世の事を思ひ給へねはけ  
んかたのをこなひもすてわすれて侍るをいかてかうおはしましつらむとおとろ  
きさはうちゑみつゝみたてまつるいとたうときたいとこなりけりさるへきも  
のつくりてすかせたてまつりかちなとまいるほとひたかくさしあかりぬすこし  
たちいてつゝみわたし給へはたかき所にてこゝかしこ僧房ともあらはにみおろ  
さるるたゝこのつつらおりのしもにおなしこしはなれとうるはしくしわたし  
きよけなるやらうなとつゝけてこたちいとよしあるはなに人のすむにかとゝひ  
給へは御ともなる人これなんなにかしそうつの二とせこもり侍るかたに侍るな  
る心はつかしき人すむなる所にこそあなれあやしうもあまりやつしけるかなき  
ゝもこそすれなどのたまふきよけなるわらはなとあまたいてきてあかたてまつ  
りはなおりなとするもあらはにみゆかしこに女こそありけれそうつはよもさや  
うにはすへ給はしをいかなる人ならむとくちくゝいふおりてのそくもありおか  
しけなる女こともわかき人わらはへなんみゆるといふ君はをこなひしたまひつ  
ゝひたくるままにいかならんとおほしたるをとかうまきはさせ給ておほしい  
れぬなんよく侍るときこゆれはしりへの山にたちいてて京のかたをみ給はるか

にかすみわたりてよものこすへそこはかとなうけふりわたれるほとゑにいとよ  
くもにたるかなかゝる所にすむ人心におもひのこすことはあらしかしの給へ  
はこれはいとあさく侍り人のくになどに侍るうみ山のありさまなどを御らんせ  
させて侍らはいかに御ゑいみしうまさらせ給はむふしの山なにかしのたけなど  
かたりきこゆるもあり又にしくにのおもしろき浦うらいそのうへをいひつゝく  
るもありてよろつにまきはしきこゆちかき所にははりまのあかしのうらこそ  
なをことに侍れなにのいたりふかきくまはなけれとたゝうみのおもてをみわた  
したるほとんあやしきこと所にすゆほひかなる所に侍るかのくにのさきの  
かみしほちのむすめかしつきたるゑいといたしかし大臣のゝちにていてたち  
もすへかりける人のよのひかものにてましらひもせず近衛の中將をすてゝ申給  
はれりけるつかさなれとかのくにの人にもすこしあなつられてなにのめいもく  
にてか又みやこにもかへらんといひてかしらもおろし侍りにけるをすこしおく  
まりたる山すみもせてさるうみつらにいてゐたるひかゝしきやうなれとけに  
かのくにのうちにさも人のこもりゑぬへき所ゝはありなからふかきさとは人  
はなれ心すこくわかきさいしのおもひわひぬへきによりかつは心をやれるすま  
ひになん侍るさいところまかりくたりて侍りしついでにありさまたまへによ  
りて侍りしかは京にてこそとこゑぬやうなりけれそこらはるかにいかめしう  
しめてつくれるさまさはいへとくにのつかさにてしをきける事なれはのこりの  
よはひゆたかにふへき心かまへもになくしたりけりのちの世のつとめもいとよ  
くして中ゝほうしまさりしたる人になん侍りけると申せはさてそのむすめは  
とゝひ給ふけしうはあらずかたち心はせなと侍るなりたいゝのくにのつかさ  
などよいことにしてさる心はへみすなれとさらにうけひかすわか身のかくい  
たつらにしつめるたにあるをこの人ひとりにこそあれおもふさまことなりもし  
われにをくれてその心さしとけすこのおもひをきつるすくせたかはゝうみにい  
りねとつねにゆいこしをきて侍るるときこゆれは君もおかしときゝ給ふ人  
ゝかいりうはうのきさきになるへきつきむすめなり心たかさくるしやと  
てわらふかくいふははりまのかみのこのくら人よりことしかうふりえたるなり  
けりいとすきたるものなれはかの入道のゆいこむやふりつへき心はあらんかし  
さてたゝすみよるならむといひあへりいてさいふともあ中ひたらむおさなく  
よりさる所におひいてゝふるめいたるおやにのみしたかひたらむははゝこそゆ  
へあるへけれよきわかうとわらはなとみやこのやむことなきところゝよりる  
いにふれてたつねとりてまはゆくこそもてなすなれなき人なりてゆか

はさて心やすくてもえをきたらしをやなといふもあり君なに心ありてうみの  
そこまでふかうおもひいるらむそのみるめものむつかしうなどのたまひて  
たゝならすおほしたりかやうにてもなへてならすもてひかみたる事このみ給御  
心なれは御みゝとゝまらむをやとみたてまつるくれかゝりぬれとおこらせ給は  
すなりぬるにこそはあめれはやかへらせ給なんとあるをたいとこ御もののけな  
とくははれるさまにおはしましけるをこよひはなをしつかにかちなとまいりて  
いてさせ給へと申すさもある事とみな人申す君もかゝるたひねもならひたまは  
ねはさすがにおかしくてさらはあか月にとの給ふ人なくてつれづれなれは夕  
くれのいたうかすみたるにまきれてかのこしはかきのほとにたちいて給人く  
はかへし給てこれみつのあそむとのそき給へはたゝこのにしおもてにしも仏  
すへたてまつりてをこなふあまなりけりすたれすこしあけて花たてまつるめ  
り中のはしらによりゐてけうそくのうへにきやうををきていとなやましけによ  
みゐるあまきみたゝ人とみえす四十よはかりにていとしろうあてにやせられ  
とつらつきふくらかにまみのほとかみのうつくしけにそかれたるすゑも中く  
なかきよりもこよなういまめかしきものかなとあはれにみ給きよけなるおと  
なふたりはかりさてはわらはへそいていりあそふ中に十はかりやあらむとみえ  
てしろききぬ山ふきなどのなへたるきてはしりきたる女こあまたみえつること  
もににるへうもあらずいみしくおいさきみえてうつくしけなるかたちなりかみ  
はあふきをひろけたるやうにゆらくとしてかほはいとあかくすりなしてたて  
りなに事そやわらはへとはらたち給へるかとてあまきみのみあけたるにすこし  
おほえたるところあれはこなめりとみ給すゝめのこをいぬきかにかしつるふせ  
このうちにこめたりつるものをとていとくちおしとおもへりこのゐたるおとな  
れいの心なしのかゝるわさをしてさいなまるゝこそいと心つきなれいつかた  
へかまかりぬるいとおかしうやうくなりつるものをからすなどもこそみつく  
れとてたちてゆくかみゆるゝかにいとなくめやすき人なめり少納言のめのと  
ゝこそ人いふめるはこのこのうしろみなるへしあま君いてあなおさなやいふか  
ひなうものし給かなをのかかくけふあすにおほゆるいのちをはなにともおほし  
たらてすゝめしたひ給ほとよつみうるこそとつねにきこゆるを心うくとてこ  
ちやといへはつゐゝたりつらつきいとらうたけにてまゆのわたりうちけふりい  
はけなくかいやりたるひたいつきかむさしいみしうつくしねひゆかむさまゆ  
かしき人かなとめとまり給さるはかきりなう心をつくしきこゆる人にいとよう  
にたてまつれるかまもるなりけりとおもふにもなみたそおつるあまきみかみ

をかきなてつゝけつる事をうるさかり給へとおかしの御くしやいとはかなうものし給こそあはれにうしろめたけれかはかりになれはいとかゝらぬ人もあるものをこ姫君は十はかりにて殿にをくれ給ひしほといみしうものはおもひしり給へりしそかしたゝいまをのれみすてたてまつらはいかて世におはせむとすらむとていみしくなくをみ給もすゝろにかなしおさな心ちにもさすかにうちまもりてふしめになりてうつふしたるにこほれかゝりたるかみつやくとめてたうみゆ

をひたゝむありかもしらぬわか草ををくらす露そきえんそらなき又あたるおとなけにとうちなきて

はつ草のおひ行すゑもしらぬまにいかてか露のきえんとすらむときこゆるほとに僧都あなたよりきてこなたはあらはにや侍らむけふしもはしにおはしましけるかなこのかみのひしりのかたに源氏の中将のわらはやみましなひにものし給けるをたゝいまなむきゝつけ侍るいみしうしのひ給ひければしり侍らてこゝに侍りながら御とふらひにもまてさりけるとの給へはあないみしやいとあやしきさまを人やみつらむとてすたれおろしつこの世にのゝしり給ふひかる源氏かゝるつるてにみたてまつり給はんやよをすてたるほうしの心ちにもいみしう世のうれへわすれよはひのふる人の御ありさまなりいて御せうそきこえんとてたつをとすればかへり給ひぬあはれる人をみつるかなかゝれはこのすきものともはかゝるありきをのみしてよくさるましき人をもみつくるなりけりたまさかにたちいつるたにかく思ひのほかなることをみるよとおかしうおほすさてもいとうつくしかりつるちこかななに人ならむかの人の御かはりにあけくれのなくさめにもみはやとおもふ心ふかうつきぬうちふし給へるに僧都の御てしこれみつをよひいてさすほどなき所なれば君もやかてきき給ふよきをはしましけるよししたゝいまなむ人申すにおとろきなからさふらへきをなにかしこのてらにこもり侍りとはしろしめしなからしのひさせ給へるをうれはしくおもひ給へてなんくさの御むしろもこのはうにこそまうけ侍へけいとほいなき事と申給へりいぬる十よ日のほとよりわらはやみにわつらひ侍るをたひかさなりてたえかたく侍れは人のをしへのままにはかにたつねいり侍りつれとかやうなる人のしるしあらはさぬときはしたなかるへきもたゝなるよりはいとおしうおもひ給へつゝみてなむいたうしのひ侍りつるいまそなたにもとの給へりすなはち僧都まいり給へりほうしなれといと心はつかしく人からもやむことなく世におもはれ給へる人なればかるゝしき御ありさまをはしたなうおほすかくこもれるほ

との御物かたりなときこえ給ておなししはのいほりなれとすこしすゝしき水のなかれも御らんせせんとせちにきこえ給へはかのまたみぬ人ゝにことゝしういひきかせつるをつゝましうおほせとあはれなりつるありさまもいふかくておはしぬけにいと心ことによしありておなし本草をもうへなし給へり月もなきころなれはやり水にかゝり火ともしとうろなともまいりたりみなみおもていときよけにしつらひ給へりそらたきものいと心にくゝかほりいて名香のかなとにほひみちたるにきみの御をひかせいとことなれはうちの人ゝも心つかひすへかめり僧都世のつねなき御ものかたりのち世の事なときこえしらせ給ふわかつみのほとおそろしうあちきなきことに心をしめていけるかきりこれを思ひなやむへきなめりましてのちの世のいみしかるへきおほしつゝけてかうやうなるすまひもせまほしうおほえ給ふものからひるのおもかけ心にかゝりて恋しければこゝにものしたまふはたれにかたつねきこえまほしき夢をみ給へしかなけふなむ思ひあはせつるときこえ給へはうちわらひてうちつけなる御夢かたりにそ侍るなるたつねさせ給ひても御心をとりせさせ給ぬへし故按察大納言は世になくてひさしくなり侍ぬれはえしろしめさしかしそのきたのかたなむなにかしかいもうとに侍るかの按察かくれてのち世をそむきて侍るかこのころわつらふ事侍によりかく京にもまかてねはたのもし所にこもりてもなし侍るなりときこえ給かの大納言のみむすめものし給ふときゝ給へしはすきゝしきかたにはあらてまめやかにきこゆるなりとをしあてにの給へはむすめたゝひとり侍しうせてこの十一年にやなり侍りぬらん故大納言内にたてまつらむなどかしこういつき侍しをそのほいのことくもものし侍らてすき侍にしかはたゝこのあま君ひとりもてあつかひ侍しほとにいかなる人のしわさにか兵部卿の宮なむしのひてかたらひつき給へりけるをもとのきたのかたやむことなくなとしてやすからぬ事おほくてあけくれものをおもひてなんなくなり侍りにしものおもひにやまひつくものためにちかくみ給へしなと申給ふさらはそのこなりけりとおほしあはせつみこの御すちにてかの人にもかよひきこえたるにやといとゝあはれにみまほし人のほともあてにおかしう中ゝのさかしら心なくうちかたらひて心のまゝにをしへおほしたてゝみはやとおほすいとあはれにものしたまふ事かなそれとはゝめ給ふかたみもなきかとおさなかりつるゆくゑのなをたしかにしらまほしくてとひ給へはなくなり侍しほとにこそ侍しかそれも女にてそゝれにつけてものおもひのもよほしになむよはひのすゑに思ひ給へなけき侍るめるときこえ給されはよとおほさるあやしきことなれとおさなき御うしろみにおほすへきこ

え給てんやおもふ心ありてゆきかゝつらふかたも侍りながら世に心のしまぬに  
やあらんひとりすみにてのみなむまたにけなきほとゝつねの人におほしなすら  
へてはしたなくやなどのたまへはいとうれしかるへきおほせことなるをまたむ  
けにいはきなきほとに侍めればたはふれにても御らんしかたくやそもく女人  
は人にもてなされておとなにもなり給ふものなれはくはしくはえとり申さすか  
のをはにかたらひ侍りてきこえさせむとすぐよかにいひてものこわきさまし給  
へればわかき御心にはつかしくてえよくもきこえ給はすあみた仏ものし給たう  
にする事侍るころになむそやいまたつとめ侍らすくしてさふらはむとてのほ  
り給ぬ君は心ちもいとなやましきに雨すこしうちそゝきやまかせひやゝかにふ  
きたるにたきのよとみもまさりておとたかうきこゆすこしねふたけなると経の  
たえくすこくきこゆるなとすすろなる人も所からもあはれなりましておほ  
しめくらすことおほくてまとろませ給はすそやといひしかとも夜もいたうふけ  
にけりうちにも人のねぬけはひしるくていとしのひたれとすゝのけうそくにひ  
きならさるゝをとほのきこえなつかしううちそよめくをとなひあてはかなりと  
きゝたまひてほともなくちかけれはとにたてわたしたる屏風の中をすこしひき  
あけてあふきをならし給へはおほえなき心ちすへかめれとききしらぬやうにや  
とてゐさりいつる人あなりすこししそきてあやしひかみゝにやとたとるをきゝ  
給ひてほとけの御しるへはくらきにいりてもさらにたかうましかなるものをと  
の給ふ御こゑのいとはかうあてなるにうちいてむこはつかひもはつかしけれと  
いかなるかたの御しるへにかおほつかなくときこゆけにうちつけなりとおほめ  
き給はむもことほりなれと

はつ草のわかはこのうへをみつるよりたひねの袖も露そかはかぬときこえ給  
ひてむやとの給ふさらにかやうの御せうそこうけ給はりわくへき人もものした  
まはぬさまはしろしめしたりけなるをたれにかはときこゆをのつからさるやう  
ありてきこゆるならんと思ひなし給へかしとの給へはいりてきこゆあないまめ  
かしこの君やよついたるほどにおはするとそおほすらんさるにてはかのわかく  
さをいかてきい給へることそとさまくあやしきにこゝろみたれてひさしうな  
れはなさけなしとて

枕ゆふこよひはかりの露けさをみ山のこけにくらへさらなむひかたう侍る  
ものをときこえ給ふかうやうのつめてなる御せうそこはまたさらにきこえしら  
すならはぬ事になむかたしけなくともかゝるついでにまめくしうきこえさす  
へきことなむときこえたまへればあまきみひか事きゝ給へるならむいとむつか

しき御けはひになにことをかはいらへきこえむとの給へははしたなうもこそお  
ほせと人くきこゆけにわかやかなる人こそうたてもあらめまめやかにのたま  
ふかたしけなしとてゐさりより給へりうちつけにあさはかなりと御らんせられ  
ぬへきつゐてなれと心にはさもおほえ侍らねはほとけはをのつからとておとな  
くしうはつかしけなるにつゝまれてとみにもえうちいて給はすけにおもひ給  
へよりかたきつゐてにかくまてのたまはせきこえさするもいかゝとの給ふあは  
れにうけたまはる御ありさまをかのすき給にけむ御かはりにおほしないてむや  
いふかひなきほどのよはひにてむつましかるへき人にもたちをくれ侍りにけれ  
はあやしうきたるやうにてとし月をこそかさね侍れおなしさまにものし給ふ  
なるをたくひになさせ給へといときこえまほしきをかゝるおり侍りかたくてな  
むおほされん所をもはゝからすうちいて侍りぬるときこえたまへはいとうれし  
う思たまへぬへき御事なからもきこしめしひかめたる事なとや侍らんとつゝま  
しうなむあやしき身ひとつをたのもし人にする人なむ侍れといとまたいふかひ  
なきほどにて御らんしゆるさるゝかたも侍りかたけなれはえなむうけ給はりと  
ゝめられさりけるとの給みなおほつかなからすうけ給はへるものとこそせう  
おほしはゝからて思ひ給へよるさまことなる心のほどを御らんせよときこえ給  
へといとにけなきことをさもしらての給とおほして心とけたる御いらへもなし  
そうつおはしぬれはよしかうきこえそめ侍りぬれはいとたのもしうなむとてを  
したて給つあかつきかたになりければ法花三昧をこなふたうのせむ法のこゑ  
山おろしにつきてきこえくるいとたうとくたきのをとにひゝきあひたり

吹まよふみやまおろしに夢さめて涙もよほすたきのをとかな

さしくみに袖ぬらしける山水にすめる心はさはきはするみゝなれはへり  
にけりやときこえ給あけ行空はいといたうかすみて山のとりともそこはかとな  
うさへつりあひたり名もしらぬ本草のはなとも色くゝにちりましりにしきをし  
けるとみゆるにしかのたゝすみありくもめつらしくみ給になやましさもまきれ  
はてぬひしりうこきもえせねとかうしてこしむまいらせ給ふかれたるこゑの  
いといったうすきひかめるもあはれにくうつきてたらによみたり御むかへの人  
くゝまいりてをこたり給へるよろこひきこえうちよりも御とふらひあり僧都世  
にみえぬさまの御くたものなにくれとたにのそこまてほりいていとなみきこえ  
給ことしはかりのちかひふかう侍りて御をくりにもえまいり侍るましきこと中  
くゝにも思ひ給へらるへきかななときこえ給ておほみきまいり給山水に心とま  
り侍りぬれとうちよりもおほつかなからせ給へるもかしこければなむいまこの

花のおりすくすまいりこむ

宮人に行てかたらむ山さくら風よりさきにきてもみるへくとの給御もてなしこわつかひさへめもあやなるに

うとむけの花まちえたる心ちしてみ山さくらにめこそうつらねときこえたまへはほゝゑみて時ありてひとたひひらくなるはかたかなるものをとの給ふひしり御かはらせ給て

おく山の松の戸ほそをまれに明てまたみぬ花のかほをみるかなとうちなきてみたてまつるひしり御まもりにとこたてまつるみ給て僧都さうとくたいしのくたらよりえたまへりけるこむかうしのすゝのたまのさうそくしたるやかてそのくによりいたるはこのからめいたるをすきたるふくろにいれてこえうのえたにつけてこむるりのつほともに御くすりともいれてふちさくらなどにつけてところにつけたる御をくりものともさゝけたてまつり給ふきみひしりよりはしめと経しつるほうしのふせともまうけのものともさまゝにとりにつかはしたりければそのわたりの山かつまでさるへきものとも給ひ御す経なとしていて給うちにそうつり給てかのきこえ給しことまねひきこえ給へともかくもたゝいまはきこえむかたなしもし御心さしあらはいま四五年をすくしてこそはともかくもとの給へはさなむとおなしさまにのみあるをほいなしとおほす御せうそこ僧都のもとなるちいさきわらはして

ゆふまくれほのかに花のいろをみてけさはかすみのたちそわつらふ御返し  
まことにや花のあたりはたちうきとかすむる空のけしきをもみむとよしあるてのいとあてなるをうちすてかい給へり御車にたてまつるほど大殿よりいちともなくておはしましにけることゝて御むかへの人ゝきみたちなどあまたまいり給へり頭中将左中弁さらぬきみたちもしたひきこえてかうやうの御ともにはつかうまつり侍らむと思ひ給ふるをあさましくをくらさせ給へることゝうらみきこえていといみしき花のかけにしはしもやすらはすたちかへり侍らむはあかぬわさかなとの給ふいはかくれのこけのうへになみるてかはらけまいるおちくる水のさまなとゆへあるたきのもとなり頭中将ふところなりけるふえとりいてゝふきすましたり弁のきみあふきはかなううちならしてとよらの寺のになるやとうたふ人よりはことなるきみたちを源氏の君いといったううちなやみていはによりゐたまへるはたくひなくゆゝしき御ありさまにそなに事にもめうつるましかりけるれのひちりきふくすいしむさうのふえもたせたるすきものなとありそうつきむをみつからもてまいりてこれたゝ御てひとつあそはしておな



しうは山の鳥もおとろかし侍らむとせちにきこえ給へはみたり心ちいとたへかたきものをときこえ給へとけに、くからすかきならしてみなたち給ぬあかくちおしといふかひなきほうしわらはへも涙をおとしあへりましてうちにはとおいたるあまきみたちなとまたさらにかゝる人の御ありさまをみさりつればこの世のものともおほえたまはすときこえあへり僧都もあはれなにの契にてかゝる御さまなからいとむつかしきひのものとすゑの世にうまれ給へらむとみるにいとなむかなしきとてめをしのこひ給このわかきみおさな心にめてたき人かなとみたまひて宮の御ありさまよりもまさり給へるかななどの給さらはかの人のお御こになりておはしませよときこゆれはうちうなづきていとようありなむとおほしたりひいなあそひにもゑかい給ふにも源氏のきみとつくりいて、きよなるきぬきせかしつき給ふ君はまつうちにまひり給て日ころの御ものかたりなときこえ給いといたうおとろへにけりとてゆゝしとおほしめしたりひしりのたうとかりける事なとゝはせ給くはしくそうし給へはあさりなともなるへきものにこそあなれをこなひのらうはつもりておほやけにしろしめされさりける事とらうたかりのたまはせけり大殿まいりあひ給て御むかへにもとおもひ給へつれとしのひたる御ありきにいかゝと思ひはゝかりてなむのとやかに一二曰うちやすみ給へとてやかて御をくりつかうまつらむと申たまへはさしもおほさねとひかされてまかてたまふわか御車にのせてまつり給ふてみつからはひきいりてたてまつれりもてかしつきゝこえ給へる御心はへのあはれなるをそさすかに心くるしくおほしける殿にもおはしますらむと心つかひし給てひさしくみたまはぬほといとゝたまのうてなにかきしつらひよろつをとゝのへ給へり女君れいのはひかくれてとみにもいて給はぬをおとゝせちにきこえ給てからうしてわたり給へりたゝゑにかきたるものゝひめきみのやうにしすへられてうちみしろき給事もかたくうるはしうてものし給へはおもふこともうちかすめ山みちのものかたりをもきこえむいふかひありておかしういらへたまはゝこそあはれならめ世には心もとけすうとくはつかしきものにおほしてとしのかさなるにそへて御心のへたてもまさるをいとくるしくおもはすにときくは世のつねなる御けしきをみはやたへかたうわつらひ侍しをいかゝとたにとひ給はぬこそめつらしからぬ事なれと猶うらめしうときこえ給からうしてとはぬはつらきものにやあらんとしりめにみをこせ給へるまみいとはつかしけにけたかううつくしける御かたちなりまれまればあさましの御事やとはぬなといふきはゝことにこそ侍なれ心うくもの給ひなすかなよとともにはしたなき御もてなしをもしおほし

なおるおりもやとさまかうさまに心みきこゆるほいと、おもほしうとむな  
めりかしよしやいのちたにとてよるのおましにいり給ひぬ女きみふともいり給  
はすきこえわつらひ給ひてうちなけてふし給へるもなま心つきなきにやあら  
むねふたけにもてなしてとかう世をおほしみたることおほかりこのわかくさ  
のおひいてむほどのなをゆかしきをにけないほど、おもへりしもことはりそか  
しいひよりかたき事にもあるかないかにかまへてた、心やすくむかへとりてあ  
けくれのなくさめにみん兵部卿の宮はいとあてになまめい給へれとにほひやか  
になともあらぬをいかてかのひとそうにおほえ給らむひとつきさきはらなれは  
にやなどおほすゆかりいとむつましきにいかてかとふかうおほゆ又の日御ふみ  
たてまつれ給へりそうつにもほのめかし給ふへしあまうへにはもてはなれたり  
し御けしきのつ、ましさにおもひ給ふるさまをもえあらはしはて侍らすなりに  
しをなむかはかりきこゆるにてもをしなへたらぬ心さしのほどを御らんしし  
はいかにうれしうなとあり中にちひさくひきむすひて

面影は身をもはなれす山桜心のかきりとめてこしかとよのまの風もうしろ  
めたくなむとあり御てなとはさるものにてたたはかなうをしつ、み給へるさま  
もまたすきたる御めともにはめもあやにこのましうみゆあなかはらいたやい  
か、きこえんとおほしわつらふゆくでの御事はなをさりにも思給へなされしを  
ふりはへさせ給へるにきこえさせむかたなくむまたなにはつをたにはかゝ  
しうつ、け侍らさめれはかひなくなむさても

嵐吹おのへのさくらちらぬまを心とめけるほとのはかなさいと、うしろめ  
たうとあり僧都の御返もおなしさまなれはくちおしくて二三日ありてこれみつ  
をそたてまつれ給少納言のめのとといふ人あへしたつねてくはしふかたらへな  
との給しらすさもかゝらぬくまなき御心かなさはかりいはけなけなりしけはひ  
をとまほならねともみしほを思ひやるもおかしわさとかう御ふみあるをそう  
つもかしこまりきこえ給ふ少納言にせうそしてあひたりくはしくおほしの給  
ふさまおほかたの御ありさまなとかたすることはおほかる人にてつきゝしうい  
ひつ、くれといとわりなき御ほとをいかにおほすにかとゆゝしうなむたれも  
ゝおほしける御ふみにもいとねむころにかいたまひてれいの中にかの御はな  
ちかきなむなをみたまへまほしきとて

あさか山あさくも人をおもはぬになとやまの井のかけはなるらむ御かへし  
くみそめてくやしとき、し山の井のあさきながらやかけをみるへきこれみ  
つもおなしことをきこゆこのわつらひ給事よろしくはこのころすくして京の殿

にわたり給てなむきこえさすへきとあるを心もとなうおほすふしつほの宮なや  
み給ふことありてまかて給へりうへのおほづかなかりなけき、こえ給ふ御けし  
きもいとくおしうみたてまつりなからかゝるおりたにと心もあくかれまとひ  
ていつくにもくまうて給はすうちにてもさとにてもひるはつれくとなかめ  
くらしてくるれはわう命婦をせめありき給いかゝたはかりけむいとわりなくて  
みたてまつるほとさへうつゝとはおほえぬそわひしきや宮もあさましかりしを  
おほしいつるたによともの御ものおもひなるをさてたにやみなむとふかうお  
ほしたるにいとくいていみしき御けしきなるものからなつかしうらうたけにさ  
りとてうちとけすこゝろふかうはつかしけなる御もてなしなどのなを人にゝさ  
せ給はぬをなとかなのめなることたにうちましり給はさりけむとつらうさへそ  
おほさるゝなに事をかはきこえつくし給はむくらふの山にやとりもとらまほし  
けなれとあやになるみしか夜にてあさましう中くなり

みても又あふ夜まれなる夢のうちにやかてまきるゝわか身ともかなとむせ  
かへり給ふさまもさすかにいみしければ

よかたりに人やつたへんたくひなくうき身をさめぬ夢になしてもおほしみ  
たれたるさまもいとことほりにかたしけなし命婦のきみそ御なをしなどはかき  
あつめもてきたる殿におはしてなきねにふしくらし給ひつ御ふみなどもれの  
御らんしいれぬよしのみあれはつねのことなからもつらういみしうおほしほれ  
てうちへもまひらて二三日こもりおはすれば又いかなるにかと御心うこかせ給  
へかめるもおそろしうのみおほえ給ふ宮もなをいと心うきみなりけりとおほし  
なけくなやましさもまさり給ひてとくまひり給へき御つかひしきれとおほし  
もたゝすまことに御心ちれいのやうにもおはしまさぬはいかなるにかと人しれ  
すおほす事もありければ心うくいかならむとのみおほしみたるあつきほどはい  
とゝおきもあかり給はす三月になり給へはいとしるきほとにて人くみたてま  
つりとかむるにあさましき御すくせのほと心うし人は思ひよらぬことなればこ  
の月までそうせさせ給はさりける事とおとろききこゆわか御心ひとつにはしる  
うおほしわく事もありけり御ゆ殿などにもしたしうつかふまつりてなに事の御  
けしきをもしるくみたてまつりしれる御めのとこの弁命婦などそあやしとおも  
へとかたみにいひあはすへきにあらねはなをのかれかたかりける御すくせをそ  
命婦はあさましとおもふうちには御ものゝけのまきれにてとみにけしきなうお  
はしましけるやうにそそうしけむかしみる人もさのみおもひけりいとゝあはれ  
にかきりなうおほされて御つかひなどのひまなきも空おそろしうものをおほす

事ひまなし中将のきみもおとろくしうさまことなる夢をみ給てあはするものをめしてとはせ給へはをよひなうおほしもかけぬすちのことをあはせけりその中にたかいめありてつゝしませ給ふへきことなむ侍るといふにわつらはしくおほえてみつからの夢にはあらず人の御事をかたるなりこの夢あふまて又人にまねふなどの給て心のうちにはいかなる事ならむとおほしわたるにこの女宮の御事きゝ給ひてもしきるやうもやとおほしあはせたまふにいとゝしくいみしき事のはつくしきこえ給へと命婦もおもふにいとむくつけうわつらはしまさりてさらにたはかるへきかたなしはかなきひとくたりの御返のたまさかなりしもたえはてにたり七月になりてそまひり給ひけるめつらしうあはれにていとゝしき御おもひのほとかきりなしすこしふくらかになり給ひてうちなやみおもやせたまへるはたけににるものなくめてたしれいのあけくれこなたにのみおはしまして御あそひもやうくおかしき空なれば源氏の君もいとまなくめしまつはしつゝ御ことふえなどさまくにつかうまつらせ給ふいみしうつゝみ給へとしのひかたきけしきのもりいつるおりく宮もさすかなる事ともをおほくおほしつゝけりかの山てらの人はよろしくなりていて給にけり京の御すみかたつねて時々の御せうそなとありおなしさまにのみあるもことはりなるうちにこの月ころはありしにまさる物おもひにことくなくてすきゆく秋のすゑつかたいとも心ほそくてなけき給ふ月のおかしき夜のひたる所からうして思ひたち給へるをしくれめいてうちそくおはする所は六条京極わたりにて内よりなれはすこしほととをき心ちするにあれたるいゑのこたちいともふりてこくらくみえたるありれいの御ともにはなれぬこれみつなむこ按察の大納言のいゑに侍りてものゝたよりにとふらひて侍しかはかのあまうへいたうよわり給にたれはなに事もおほえすとなむ申して侍しときこゆればあはれの事やとふらふへかりけるをなとかさなむともものせさりしいりてせうそせよとのたまへは人いれてあないせさすわざとかうたちより給へる事といはせたれはいりてかく御とふらひになむおはしましたるといふにおとろきていとかたはらいたき事かなこの日ころむけにいとたのもしけなくならせ給ひにたれは御たいめんなどもあるましといへともかへしたてまつらむはかしこしとてみなみのひさしひきつくるひていれたてまつるいとむつかしけに侍れとかしこまりをたにとてゆくりなうものふかきおまし所になむときこゆけにかゝる所はれいにたかひておほさるつねに思ひ給へたちなからかひなきさまにのみもてなさせ給ふにつゝまれ侍りてなむなやませ給ふことをもくともうけたまはらさりけるおほつかなさなときこえ給ふ

みたり心ちはいつともなくのみ侍るかかきりのさまになり侍りていとかたしけ  
なくたちよらせ給へるにみつからきこえさせぬことのたまはすることのすちた  
まさかにもおほしめしかはらぬやう侍らはかくわりなきよはひすき侍りてかな  
らすかすまへさせ給へいみしう心ほそけにみたまへをくなんねかひ侍るみちの  
ほたしに思たまへられぬへきなきこえ給へりいとちかければ心ほそけなる御  
こゑたえくきこえていとかたしけなきわさにも侍るかなこの君たにかしこま  
りもきこえたまつへきほとならましかはとの給ふあはれにきゝ給てなにかあさ  
う思ひ給へむ事ゆへかうすきくしきさまをみえたてまつらむいかなるちきり  
にかみたてまつりそめしよりあはれにおもひきこゆるもあやしきまでこの世の  
事にはおほえ侍らぬなどの給てかひなき心地のみし侍るをかのいはけなうもの  
し給御ひとこゑいかてとの給へはいてやよろつおほししらぬさまにおほどのこ  
もりいりてなときこゆるおりしもあなたよりくるをとしてうへこそこのてらに  
ありし源氏のきみこそおはしたなれなとみたまはぬとの給ふを人くいとかた  
はらいたしと思ひてあなかまときこゆいさみしかは心地のあしさなくさみきと  
の給ひしかはそかしとかしこきこきこえたりとおほしての給ふいとおかしと  
きい給へと人くくくるしと思ひたればきかぬやうにてまめやかなる御とふら  
ひをきこえをき給てかへり給ひぬけにいふかひなのけはひやさりともいとう  
をしへてむとおほす又の日もいとまめやかにとふらひきこえ給ふれいのちひさ  
くて

いはけなきたつの一こゑききしよりあしまになつむ舟そえならぬおなし人  
にやとことさらおさなくかきなし給へるもいみしうおかしけなれはやかて御て  
ほむにと人くきこゆ少納言そきこえたととはせ給へるはけふをもすくしかた  
けなるさまにて山寺にまかりわたるほとにてかうとはせ給へるかしこまりはこ  
の世ならてもきこえさせむとありいとあはれとおほす秋の夕はまして心のいと  
まなくおほしみたるゝ人の御あたりを心をかけてあなかななるゆかりもたつね  
まほしき心もまさり給ふなるへしきえむ空なきとありし夕おほしいてられてこ  
ひしくも又みはおとりやせむとさすかにあやふし

手につみていつしかもみむむらさきのねにかよひけるのへのわか草十月に  
すさく院の行かうあるへしまひ人などやむ事なきいゑのこととかむたちめ殿上  
人ともなともそのかたにつきくしきはみなえらせ給へれはみこたち大臣より  
はしめてとりくのさえともならひ給いとまなし山さと人にもひさしくをとつ  
れ給はさりけるをおほしいてゝふりはへつかはしたりければそうつのかへり事

のみありたちぬる月の廿日のほとになむつゐにむなしくみ給へなしてせけむの  
たうりなれとかなしひ思ひ給ふなどあるをみ給に世のなかのはかなさもあは  
れにうしろめたけに思へりし人もいかならむおさなきほとに恋やすらむこみや  
す所にをくれたてまつりしなとはかくしからねと思ひいて、あさからすとふ  
らひ給へり少納言ゆへなからす御かへりなときこえたりいみなとすきて京のと  
のになとき、給へはほとへて身つからのとかなる夜おはしたりいとすこけにあ  
れたる所のひとすくなゝるにいかにおさなき人おそろしからむとみゆれいの所  
にいたてまつりて少納言御ありさまなとうちなきつつきこえつゝくるにあい  
なう御そてもたゝならす宮にわたしたてまつらむと侍めるをこひめきみのいと  
なさけなくうきものに思ひきこえ給へりしにいとむけにちこならぬよはひの又  
はかくしう人のおもむけをもみしり給はすなかそらなる御ほとにてあまたも  
のし給ふなる中のおなつらはしき人にてやましり給はんなどすき給ぬるもよと  
ゝもにおほしなけきつることしるきことおほく侍るにかくかたしけなきなけの  
御ことのはゝのちの御心もたとりきこえさせすいとうれしうおもひ給へられぬ  
へきおりふしに侍りなからすこしもなそらひなるさまにもものし給はす御とし  
よりもわかひてならひ給へれはいとかたはらいたく侍るときこゆなにかかうく  
りかへしきこえしらする心のほとをつゝみ給らむそのいふかひなき御心のあり  
さまのあはれにゆかしうおほえたまふもちきりことになむ心なからおもひしら  
れけるなを人つてならてきこえしらせはや

あしわかのうらにみるめはかたくともこはたちなからかへるなみかはめさ  
ましからむとの給へはけにこそいとかしこけれとて

よるなみの心もしらてわかのうらにたまもなひかぬほとそうきたるわりな  
き事ときこゆるさまのなれたるにすこしつみゆるされ給ふなそこえさらんとう  
ちすしたまへるを身にしみてわかき人ゝおもへり君はうへをこいきこえ給ひ  
てなきふしたまへるに御あそひかたきとものなをしきたる人のおはする宮のお  
はしますなめりときこゆれはおきいて給ひて少納言よなをしきたりつらむはい  
つら宮のおはするかとてよりおはしたる御こゑいとらうたし宮にはあらねと又  
おほしはなつへうもあらずこちとの給ふをはつかしかりし人とさすかにきゝな  
してあしういひてけりとおほしてめのとにさしよりていさかしねふたきにとの  
給へはいまさらになとしのひ給らむこのひさのうへにおほとこのもれよいます  
こしより給へとの給へはめのとのされはこそかう世つかぬ御ほとにてなむとて  
をしよせたてまつりたればなに心もなくゐたまへるにてをさしいれてさくり給

へれはなよ、かなる御そにかみはつや／＼とかゝりてすゑのふさやかにさくり  
つけられたるいとうつくしうおもひやらるてをとらへたまへれはうたてれい  
ならぬ人のかくちかつき給へるはおそろしうてねなむといふものをとてしひて  
ひきいり給につきてすへりいりていまはまるそ思へき人なうとみ給そとのたま  
ふめのといてあなうたてやゆゝしうも侍るかなきこえさせしらせ給ともさらに  
なにのしるしも侍らしものをとてくるしけに思ひたれはさりともかゝる御ほと  
をいかゝはあらんなをたゝ世にしらぬ心さしのほとをみはて給へとの給あられ  
ふりあれてすこき夜のさまなりいかてかう人すくなに心ほそうてすくし給ふら  
むとうちなひ給ていとみすてかたきほとなれはみかうしまいりねものおそろし  
き夜のさまなめるをとのゑ人にて侍らむ人／＼ちかふさふらはれよかしとてい  
となれかほにみ帳のうちにいり給へはあやしうおもひのほかにもとあきれてた  
れも／＼ゐたりめのとはうしろめたなうわりなしとおもへと荒ましうきこえさ  
はくへきならねはうちなけきつゝあたりわかきみはいとおそろしういかならん  
とわななかれていとうつくしき御はたつきもそゝろさむけにおほしたるをらう  
たくおほえてひとへはかりをゝしくゝみてわか御心ちもかつはうたておほえ給  
へとあはれにうちかたらひ給ひていさたまへよおかしきゑなどおほくひゝなあ  
そひなとするところにと心につくへき事をの給ふけはひのいとなつかしきをお  
さなき心ちにもいといったうをちすさすかにむつかしうねもいらすおほえてみし  
ろきふしたまへり夜ひとよ風ふきあるるにけにかうおはせさらましかはいかに  
心ほそからましおなしくはよろしきほとにおはしまさしかはとさゝめきあへ  
りめのとはうしろめたさにいとちかふさふらふかせすこしふきやみたるに夜ふ  
かういて給ふもことありかほなりやいとあはれにみたてまつる御ありさまをい  
まはましてかたときのまもおほつかかなかるへしあけくれななめ侍るところにわ  
たしたてまつらむかくてのみはいかゝものをちし給はさりけりとの給へは宮も  
御むかへになときこえの給ふめれとこの御四十九日すくしてやなと思ふ給ふる  
ときこゆれはたのもしきすちなからもよそ／＼にてならひ給へるはおなしうこ  
そうとうおほえたまはめいまよりみたてまつれとあさからぬ心さしはまさりぬ  
へくなむとてかいなてつゝかへりみかちにていて給ひぬいみしうきりわたれる  
空もたゝならぬにしもはいとしろうをきてまことのけさうもおかしかりぬへき  
にさう／＼しうおもひおはすいとしのひてかよひ給ふところのみちなりけるを  
おほしいてゝかとうちたゝかせ給へときゝつくるひとなしかひなくて御ともに  
こゑある人してうたはせ給ふ

あさほらけきりたつ空のまよひにも行すきかたきいもかかとかたとふたかへりはかりうたひたるによしあるしもつかひをいたして

たちとまりきりのまかきのすきうくは草の戸さしにさはりしもせしといひかけて入ぬ又人もいてこねはかへるもなさけなけれとあけゆく空もはしたなくて殿へおはしぬおかしかりつる人のなこり恋しくひとりゑみしつゝふし給へりひたかうおほとこのもりおきてふみやり給ふにかくへきこと葉もれいならねはふてうちをきつゝすさひゑたまへりおかしきゑなとをやり給ふかしこにはけふしも宮わたり給へりとしころよりもこよなうあれまさりひろうものふりたる所のいとゝ人すくなにひさしければみわたし給てかゝる所にはいかてかしはしもおさなき人のすくし給はむ猶かしこにわたしたてまつりてむなにのところせきほとにもあらずめのとはさうしなどしてさふらひなむ君はわかき人ゝあれはもろともにあそひていとうものし給ひなむなどの給ふちかうよひよせたてまつりたまへるにかの御うつりかのいみしうゑむにしみかへらせ給へれはおかしの御にほひや御そはいとなへてと心くるしけにおほいたりとしころもあつしくさたすき給へる人にそひ給へるよかしこにわたりてみならし給へなともせしをあやしうとみ給て人も心をくめりしをかゝるおりにしもものし給はむ心くるしうなどの給へはなにかは心ほそくとしはしかくておはしましなむすこしものゝこゝろおほししりなむにわたらせ給はむこそよくは侍へれときこゆるるひるこひきこえたまふにはかなきものもきこしめさすとてけにいといたうおもやせ給へれといとあてにうつくしくなかゝみえたまふなにかさしもおほすいまは世になき人の御事はかひなしをのれあれはなとかたらひきこえ給ひてくるればかへらせ給ふをいと心ほそしとおほめてない給へは宮うちなき給ひていとかうおもひないり給そけふあすわたしたてまつらむなとかへすゝこしらへをきていて給ひぬなこりもなくさめかたうなきゑ給へりゆくさきの身のあらむ事なとまでもおほししらすたゝ年ころたちはなるゝおりなうまつはしならひていまはなき人となり給ひにけるとおほすかいみしきにおさなき御心ちなれとむねつとふたかりてれのやうにもあそひ給はすひるはさてもまきはし給ふをゆふくれとなれはいみしくし給へはかくてはいかてかすこし給はむとなくさめわひてめのともなきあへりきみの御もとよりはこれみつをたてまつれ給へりまいりくへきをうちよりめしあれはなむ心くるしうみたてまつりしもしつ心なくとてとのゑ人たてまつれ給へりあちきなうもあるかなたはふれにてもものゝはしめにこの御事よ宮きこしめしつけはさふらふ人ゝのをろかなるにそ



さいなまむあなかしこものゝついでにいはけなくうちいてきこえさせ給ふなな  
といふもそれをはなにともおほしたらぬそあさましきや少納言はこれみつにあ  
はれなるものかたりともしてありへてのちやさるへき御すくせのかれきこえ給  
はぬやうもあらむたゝいまはかけてもいとにけなき御事とみたてまつるをあや  
しうおほしの給はするもいかなる御こゝろにかおもひよるかたなうみたれ侍る  
けふもみやわたらせ給てうしろやすくつかうまつれ心おさなくもてなしきこゆ  
などの給はせつるもいとはつらはしうたゝなるよりはかゝる御すき事も思ひい  
てられ侍りつるなといひてこの人も事ありかほにや思はむなとあいなければい  
たうなけかしけにもいひなさすたいふもいかなることにあらむと心えかたふ  
おもふまいりてありさまなときこえければあはれにおほしやらるれとさてかよ  
ひ給はむもさすかにすゝろなる心ちしてかるゝしうもてひかめたと人もや  
もりきかむなとつゝましかればたゝむかへてむとおほす御ふみはたひゝたて  
まつれ給くるれはれいのたいふをそたてまつれ給ふさはる事とものありてえま  
いりこぬををろかにやなどあり宮よりあすにはかに御むかへにとのたまはせた  
りつれは心あはたゝしくてなむとしころのよもきふをかれなむもさすかに心ほ  
そくさふらふ人ゝもおもひみたれてとことすくなにいひておさゝあへし  
はすものぬひいとなむけはひなとしるければまいりぬきみは大殿におはしける  
にれの女君とみにもたいめむしたまはすものむつかしくおほえ給てあつまを  
すかかきてひたちにはたをこそつくれといふうたをこゑはいとなまめきてすさ  
ひゐたまへりまいりたれはめしよせてありさまとひたまふしかゝなときこゆ  
れはくちおしうおほしてかの宮にわたりなはわさとむかへいてむもすきゝし  
かるへしおさなき人をぬすみてたりともときおひなむそのさきにしはし人に  
もくちかためてわたしむとおほしてあか月かしこにもものせむ車のそうそくさ  
なからすいしんひとりふたりおほせをきたれとの給ふうけたまはりてたちぬき  
みいかにせましきこえありてすきかましきやうなるへきこと人のほとたにもの  
をおもひしり女の心かはしける事とをしはかれぬへくは世のつねなりちゝ宮  
のたつねいて給へらむもはしたなうすゝろなるへきをとおほしみたるれとさて  
はつしてむはいとくちおしかへければまた夜ふかういて給女きみれいのしふ  
ゝに心もとけすものし給かしこにいとせちにみるへき事の侍るをおもひ給へ  
いてゝたちかへりまいりきなむとていて給へはさふらふ人ゝもしらさりけりわ  
か御かたにて御なをしなとはたてまつるこれみつばかりを馬にのせておはしぬ  
かとうちたゝかせ給へは心しらぬ物のあけたるに御くるまをやをらひき入させ

てたいふつまとをならしてしはふけは少納言きゝしりていてきたりこゝにおはしますといへはおさなき人は御とのこもりてなむなどかいと夜ふかうはいてさせ給へるものゝたよりとおもひていふ宮へわたらせ給へかなるをそのさきにきこえをかむとてなむとの給へはなに事にか侍らむいかにはかゝしき御いらへきこえさせ給はむとてうちわらひてゐたりきみいり給へはいとかたはらいたくうちとけてあやしきふる人どもの侍るにときこえさすまたおとろい給はしないて御めさましきこえむかゝるあさきりをしらてはぬるものかとて入給へはやともえきこえすきみはなに心もなくねたまへるをいたきおとろかし給におとろきて宮の御むかへにおはしたるとねをひれておほしたり御くしかきつくろひなとし給ていさ給へ宮の御つかひにてまゐりきつるそとの給にあらさりけりとあきれておそろしとおもひたればあな心うまろもおなし人そとてかきいたきていて給へはたいふ少納言などこはいかにときこゆこゝにはつねにもえまいらぬかおほつかなければ心やすき所にときこえしを心うくわたり給へるなれはましてきこえかたかへければ人ひとりまいられよかしの給へは心あはたゝしくてけふはいとひむなくなむ侍へき宮のわたらせ給はんにはいかさまにかきこえやらんをのつからほとへてさるへきにおはしまさはともかうも侍りなむをいと思ひやりなきほとのこと侍れはさふらふ人ゝくるしう侍るへしときこゆれはよしのちにも人はまいりなむとて御車よさせ給へはあさましういかさまにと思ひあへりわか君もあやしとおほしてない給ふ少納言とゝめきこえむかたなければよへぬひし御そともひきさけてみつからもよろしきゝぬきかへてのりぬ二条院はちかければまたあかうもならぬほとにおはしてにしのたいに御車よせており給ふわかきみはいとかろらかにかきいたきておろし給ふ少納言なをいと夢の心ちし侍るをいかにし侍へき事にかとやすらへはそは心なり御身つからわたしたてまつりつればかへりなむとあらはをくりせむかしとの給にわらひておりぬにはかにあさましうむねもしつかならず宮のおほしの給はむこといかになりはて給ふへき御ありさまにかとてもかくてもたのもしき人ゝにをくれ給へるかいみしさとおもふに涙のとまらぬをさすかにゆゝしければねむしゐたりこなたはすみ給はぬたいなれば御帳などもなかりけりこれみつめてみ帳御屏風などあたりゝしたてさせ給御き丁のかたひらひきおろしおましなとたゝひきつくろふばかりにてあればひむかしのたいに御とのゐものめしにつかはしておほとこのこもりぬわか君はあとむくつけくいかにする事ならむとふるはれ給へとさすかにこゑたてゝもえなき給はす少納言かもとにねむとの給こゑいとわかし

いまはさはおほとこのこもるましきそよとをしへきこえ給へはいとわひしくてなきふし給へりめのはうちもふされすものもおほえすおきゐたりあけゆくまゝにみわたせはおとゝのつくりさましつらひさまさらにもいはすにはのすなこともたまをかさねたらむやうにみえてかゝやく心地するにはしたなくおもひゐたれとこなたには女なともさふらはさりけりけうときまらうとなとのまいるおりふしのかたなりければおとこともそみすのにありけるかく人むかへ給へりときく人たれならむおほろけにはあらしとさゝめく御てうつ御かゆなとこなたにまいるひたかうねをき給てひとなくてあしかめるをさるへき人くゝゆふつけてこそはむかへさせ給はめとの給てたいにはらはめしにつかはすちゐるさきかきりことさらにまいれとありければいとおかしけにて四人まいりたり君は御そにまとはれてふし給へるをせめておこしてかう心うくなをはせそすゝろなる人はかうはありなむや女は心やはらかなるなむよきなといまよりをしへきこえ給御かたちはさしはなれてみしよりもきよらにてなつかしううちかたらひつゝおかしきゑあそひ物ともとりにつかはしてみせたてまつり御心につく事ともをし給やうくおきゐてみ給ににひいろのこまやかなるかうちなえたるともをきてな心なくうちゑみなどしてゐ給へるかいとうつくしきにわれもうちゑまれてみ給ひむかしのたいにわたり給へるにたちいてゝにはのこたचितけのかたなどのそき給へはしもかれのせむさいゑにかけるやうにおもしろくてみもしらぬしゐるゑこきませにひまなういていりつゝけにおかしき所かなとおほす御屏風ともなといとおかしきゑをみつゝなくさめておはするもはかなしや君は二三日うちへもまいり給はてこの人をなつけかたらひきこえ給やかてほむにとおほすにやてならひゑなとさまくにかきつゝみせたてまつり給いみしうおかしけにかきあつめ給へりむさしのといへはかこたれぬとむらさきのかみにかい給へるすみつきのことなるをとりてみるたまへりすこしちいさくて

ねはみねとあはれとそおもふむさしのゝ露わけわふる草のゆかりをとありいて君もかい給へとあれはまたようはかゝすとてみあげ給へるかなに心なくうつくしけなれはうちほゝゑみてよからねとむけにかゝぬこそわるけれをしへきこえむかしとの給へはうちそはみてかい給てつきふてとり給へるさまのおさなけなるもらうたうのみおほゆれは心なからあやしとおほすかきそこなひとつとはちてかくし給をせめてみたまへは

かこつへきゆへをしらねはおほつかないかなる草のゆかりなるらんといいわかかれとおいさきみえてふくよかにかい給へりこあまきみのにそにたりける

いまめかしきてほむならば、いとようかいたまひてむとみ給ひゐな、とわさとやともつくりつゝ、けてもろともにあそひつゝ、こよなきもの思のまきらはしなりかのとまりにし人／＼宮わたり給てたつねきこえ給けるにきこえやるかたなくてそわひあへりけるしはし人にしらせしと君もの給少納言も思ふ事なればせちにくちかためやりたりたゝ行ゑもしらす少納言かいてかくしきこえたるとのまきこえさするに宮もいふかひなうおほしてこあま君もかしこにわたり給はむ事をいともものしとおほしたりし事なればめのどのいとさしすくしたる心はせのあまりおいらかにわたさむをひむなしとはいはてこゝろにまかせゐてはふらか

しつるなめりとなく／＼かへり給ぬもしきゝいてたてまつらはつけよとの給もわつらはしくそうつの御もとにもたつねきこえ給へとあとはかなくてあたらしかりし御かたちなど恋しくかなしとおほすきたのかたもはゝきみをにくしと思きこえ給ける心もうせてわか心にまかせつへうおほしけるにたかひぬるはくちをしうおほしけりやう／＼人まいりあつまりぬ御あそひかたきのわらはへちこともいとめつらかにいまめかしき御ありさまともなれはおもふ事なくてあそひあへりきみはおとこきみのおはせすなとしてさう／＼しきゆふくれなとはかりそあま君をこひきこえ給てうちなきなとし給へと宮おはことにおもひいてきこえ給はすもとよりみならひきこえ給はてならひ給へれはいまはたゝこのゝちのおやをいみしうむつひまつはしきこえ給ものよりおはすれはまついてむかひてあはれにうちかたらひ御ふところにいりゐていさゝかうとくはつかしとおおもひたらすするかたにいみしうらうたきわさなりけりさかしら心ありなにくれとむつかしきすちになりぬれはわか心地もすこしたかふふしもいてくやと心をかれ人もうらみかちに思ひのほかの事をのつからいてくるをいとかしきもてあそひなりむすめなどはたかはかりになれは心やすくうちふるまひへたてなきさまにふしおきなどはえしもすすましきをこれはいとさまかはりたるかしつきくさなりとおもほいためり